

中学生の「税についての作文」

大川税務署長賞

税金の歴史

大川市立大川桐薫中学校

三年 島 翔太郎

日頃「税金」という言葉を耳にしたときに疑問に思うことがある。それは「いつ税は誕生したのか」だ。

これの答えを知るためネットを使って税の歴史を調べた。私は、税金が誕生したのは、千年ほど前だろうと予想していたが答えは、人類が誕生し国や自治体ができたとほぼ同じ頃に税の制度がつけられていたと考えられるようだ。とても遠い昔でイメージができない。そこでもっと詳しく、どのような税金であったか調べてみた。世界で最古の税は、原始時代にあつたとされる。現金ではなく収穫物であった。収穫物は、一旦神に捧げられ民に再分配されていたという説があり、税制度に似た物が原始時代にあつたとされる。

次にローマ帝国であった税だ。ローマ帝国では、収入の何割かを税率とする税制度があつた。また商品の売買で発生する税もあり、現在の所得税や消費税に近いものがあつた。

一方、日本で最古の税金は、卑弥呼が女王だった頃にあつたものだが、明確に制定されていたのは、六四五年の大化の改新からだ。「租庸調」というもので、租は、収穫の三％を納めるものである。庸は、十日間の労働または、布を納める

税、そして調は、地域の特産物を納める税である。日本もとても早い時期に税金を取り入れていたことに驚いた。その後もさまざまな税の制度が生まれ、時代が経ち、消えていく。

やがて明治時代になり地租改正が実施された。土地の所有者は、土地の価格の三％分の納税が課された。税制度の整備がされ現在の税制度に近づき米などの収穫物ではなく金銭での納税を行うようになり、法人税や所得税が制定された。収穫の何％を納めるということは明治より前と変わっていないなど考えた。またこれが、今のちがいだと思つた。

そして戦後、日本国憲法が制定され国民の義務として納税が定められた。一九四七年納税者が自ら自分の所得や税額を計算して申告し納税する、申告納税制度が導入された。現在の近い税制度が確立された。その後も、時代に合わせて国会で議論がくり返されている。

税は、国や自治体ができたとほぼ同じ頃に誕生した。そして、人間の考え方の変化によって形や内容を変えてきたことが分かった。その時代の暮らし方に合った暮らしをするために税金があるのではないかと考えた。税金のせいで自由に使えるお金が減るかもしれないがよりよい暮らしのため、きっちり税金を納めたいと思う。

